

将来にわたる「互助活動」を のみ地域力強化支援ファンド採択式・活動計画報告会



新たに採択された佐野町つながり隊の皆さん

7月19日、のみ地域力強化支援ファンドの採択式と活動計画報告会を市役所で行いました。今回採択された団体は、佐野町つながり隊（世代や属性を限定しないつながりの場づくり）です。

井出市長は「人材豊富な佐野町ならではの事業であり、多種多様なイベントを小まめに開催されている。心と心がつながるこの活動をいつまでも続けてほしい」とエールを送りました。

佐野町つながり隊「世代間交流・居場所づくり」

町民相互の「つながり」を深める機会を増やして魅力あるまちづくり、にぎわいのあるまちづくりを創出することを目的に、毎月講座を開催し、子どもや大人、高齢者との世代間交流を図っています。



腕に巻くハンカチが佐野町つながり隊の証です

佐野町の人材を発掘し生かすため、講座の講師は町内の住民が担っています。また「九谷焼探訪講座」や「シエフ料理講座」、小学生ジュニアガイドによる「見て歩き佐野の歴史とお宝探訪講座」など、地元の産業や資源を生かす工夫をしています。

今後も活動を継続し、年間を通して一人でも多くの住民が参加・交流できる機会をつくることを目指していきます。

問／佐野公民館（☎57・1300）

モリス・サラさん 6年間ありがとう

市のALIT（外国語指導助手）として、市内小中学校の英語教育に貢献されたモリス・サラさんが、7月31日、JETプログラム（JETプログラム）の任期満了によりALITを退任されました。



7月20日、サラさんは市役所を訪れ、井出市長から「JET 絆大使」の任命書を手渡されました。サラさんは「能美市の美しさや市民の皆さんの優しさを伝えたい。これからも母国との架け橋になりたい」と述べました。帰国後はアメリカの日本大使館で、母国の人たちに日本の良さや伝統文化を発信する仕事に従事されます。

はじめまして カー・キャサリンです

新しく市のALITを務めるカー・キャサリンさんが、8月5日、市役所を訪れ井出市長に着任のあいさつをしました。



キャサリンさんはこれまで、アメリカのサマーキャンプに参

加するなど積極的に子どもたちと関わっており「能美市の子どもたちとも、英語でたくさんコミュニケーションを取りたい」と話しました。またご自身の経験から「方法を変えるだけで学ぶことが楽しくなる。英語を楽しくめるような教え方をしたい」と意気込みを語りました。在任中は市内小中学校で児童生徒が英語に慣れ親しむよう活動します。

金沢学院大学と連携 食生活改善推進員が食事バランスを再確認

7月13日、金沢学院大学と連携して、市健康福祉センター「サント」で食生活改善推進員の研修会を実施し、地域の健康づくりの担い手である推進員28名が、体験型食育システム「SAT（サット）」を体験しました。このシステムは、食品サンプルから実際の献立を選ぶと、その食事バランスが5段階評価で簡単に分かるものです。

参加者からは「気を付けているつもりでも、塩分の摂りすぎがあることが分かった」「目で見て楽しく学ぶことができた。今後に生かしていきたい」などの意見が寄せられ、好評でした。また同日開催した健康づくり推進協議会でも、参加者がSATシステムを体験し、地域の健康教育への理解を深めました。

誰もが安心して暮らせる能美市へ 小林デジタル副大臣と懇談

7月19日、小林史明デジタル副大臣兼内閣府副大臣が能美市を訪れ、市防災センターでデジタル技術を活用した地域課題の解決に向けて井出市長らと懇談しました。



意見を交わす小林副大臣と参加者の皆さん

医師やケアマネジャー、民生委員・児童委員、子育てや外国人支援の関係者が参加し、「情報連携のデジタル化により質の高い在宅ケアの提供につなげたい」「地域活動の拠点となる市内公民館に

WiFi環境を整うとよい」などの声がありました。小林副大臣は「デジタルの活用により、地域活動しやすくなるようサポートしたい」と述べました。※役職は視察当時のものです。

石川県消防操法大会で根上分団が敢闘賞を受賞

7月30日、石川県消防学校で、第68回石川県消防操法大会が開催されました。3年ぶりに開催される大会に、能美市を代表して根上分団が出場しました。結果は惜しくも二連覇とはなりませんでしたが、迫力のある放水姿で敢闘賞を勝ち取りました。



大会に臨む根上分団の皆さん



勇ましい放水姿を見せる選手たち

和佐谷町が防災資機材を整備

和佐谷町は地震などの災害時に、住民の安全確認や避難支援などを行うための拠点の立ち上げに必要な、発電機や投光器、テントなどの防災資機材を、宝くじを財源とした「令和4年度コミュニティ助成事業」で整備しました。

安全・安心の地域づくりに寄与することが期待されます。

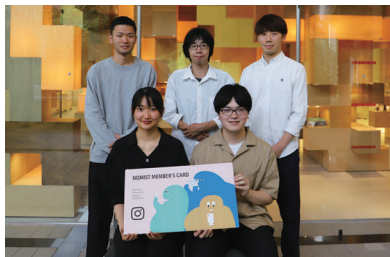


この事業は宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの助成により行われているものです

JAIIST学生「NOMIST」が 能美の魅力を広げ発信

若者目線で能美の魅力発信を行うために、市では毎年、北陸先端科学技術大学院大学（JAIIST）の学生を「NOMIST」に認定しています。任期は1年で、市内の飲食店やイベント、風景などを日本語や英語、中国語などの多言語により、インスタグラムの専用アカウントで世界に発信しています。

7月22日、この事業に賛同



前列左から、ヨウ・ウドウさん、小川陸さん
後列左から千代鳥史弥さん、能美雄太さん、柴田和磨さん



NOMIST
(インスタグラム
アカウント)
2次元コード

インスタグラムアカウント「NOMIST」の
フォローをぜひお願いします。

し、応募のあったJAIIST学生5名に、NOMISTメンバーズカードを交付しました。このカードにより施設の優待などが受けられ、活動の幅が広がります。

交付を受けたリーダーの小川陸さん（新潟県出身）は「外から来た人の目線で発信し、地元の方だけでなく、市外の方へも能美の魅力を届けたい」と今後の意気込みを語りました。

福岡保育園の園児たちが 加賀丸いものつる巻きを体験



つる巻き体験をする園児たち

7月11日、福岡保育園の年長組（きくぐみ）28人が中庄町の畑で加賀丸いものつる巻き体験をしました。

この体験は市の特産物である加賀丸いもの栽培や普及に取り組んでいる「中庄町丸いも娯楽会」の企画で毎年行われています。

最初につるの巻き方の指導を受けた園児たちは、長く成長したつるがちぎれないよう、支柱に張られたビニール紐へ丁寧に巻き付けていきました。

秋には収穫体験を予定しています。

能美市戦没者慰霊式を行いました

8月17日、寺井地区公民館で能美市戦没者慰霊式を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小して行い、日清戦争以降に戦没した976柱の英霊の冥福を祈りました。

井出市長は式辞で「命や平和の尊さを語り継いでいく」と述べ、田中策次郎市議会議長、杉田隆一遺族会長が追悼の言葉を述べました。式典後は引き続き、追悼法要を行いました。



追悼の言葉を述べる杉田会長